

報告 2011年度 東京の区市町村消費者行政調査の取り組み 「報告・交流会」



～消費者行政の充実とさらなるつながりづくりのために！～



司会：岡本琴子さん
(パルシステム東京)

日時：2012年3月28日(水) 10:00～12:30

場所：東京都生協連会館 3階

参加者：87名(消費者団体、生協組合員・職員、都内消費者行政担当者、マスコミなど)

主催：東京消費者団体連絡センター・東京都生協連消費者行政連絡会

協賛：東京都消費者月間協賛事業

<スケジュール>

- ①開会挨拶 竹内 誠(東京都生協連 専務理事)
- ②まとめ報告～2011年度取り組み報告と2012年度に向けて
矢野洋子(東京都消費者団体連絡センター 事務局長)
- ③行政担当者・懇談参加者からのリレートーク(2自治体3団体より報告)
- ④質疑応答
- ⑤ワークショップと発表
- ⑥閉会挨拶 奥田明子(東京都地域消費者団体連絡会 代表委員)



東京都生協連 竹内専務

<開会挨拶> 消費者庁ができてもうすぐ3年、さまざまな取り組みにより対応してきているが消費者被害は無くならない。東京都生協連は次年度も光を注ぐ交付金を活用し、消費者啓発のために東京都と一緒に取り組む。地域とのつながりを通し、様々な形で被害にあわないようにしていくことや消費者行政の充実が大切です。本日は成果も含めた報告を頂き、交流と学びの場としてください。

まとめ報告～2011年度の取り組み報告～

消費者行政の充実により私たちが住んでいる町がもっと暮らしやすくなるようにと、昨年度に引き続き東京消費者団体連絡センターと東京都生協連消費者行政連絡会が共同し、都内の消費者団体と生協組合員で53区市町村の消費者行政調査・訪問に取り組みました。地域の消費者行政担当者と直接お会いし懇談することで、消費者の声を反映させるつながりを持ち、参加団体の連携も広げることができました。

【2011年度の取り組み】 53区市町村へのアンケート調査(回収率100%)・「キックオフ集会」開催(参加86名)・「53区市町村消費者行政担当者との懇談」実施(参加276名)・2011年度「報告・交流会」(参加87名)

【成果】

- ・前年度からの取り組みやアンケート結果を受けての消費者行政への要望が、自治体の取り組みに反映されることが増えました。
- ・懇談に参加し、実情が見えてきたことが、消費者行政への関心を高めたり、具体的な活動を考えあったり、実施する動きにつながり、広がってきています。
- ・生協や消費者団体の活動を知ってもらえたことで、行政側から期待をこめた要望も出されるようになり、区市町村とのパイプ形成が進んでいます。
- ・懇談等への参加を通して、地域の団体同士の顔合わせやおたがいの活動を知るなど、地域での連携の足がかりにつながっています。
- ・地域の実情を知ることで、行政との連携や協力、あるいは行政への要望活動等の具体的な動きにつながっていきます。

【課題】

- ・データ分析を進め、各自治体の消費者行政課題を明確にしていきます。
- ・地域や団体での取り組みについて情報交流し、活動の裾野を広げていきます。
- ・引き続き、双方が協力できることを伝え合い、実績を重ね、パイプ形成を進めていきます。
- ・地域での生協や消費者団体との連携の輪が広がりを、消費者展等の可能な参加形態や穏やかな関係づくり等を通してすすめていきます。
- ・取り組みに関わることで、地域の実情に目を向けるきっかけとなります。地域の課題を引き出し、取り組みを進めて、引き続きよりよいまちづくりのために力を発揮し、行政との連携や参画を進めていきます。

行政担当者・懇談参加者からのリレートーク

<板橋区消費者センター>

消費者センター所長 江口龍治さんの報告と寸劇をする「くらしのサポート隊」の皆さん



江口龍治所長

板橋区「くらしのサポート隊」について

板橋区消費者センターが開催した「くらしのサポート隊養成講座」の修了者によって結成されたグループが、区と協働し消費者啓発活動を行う。

悪質商法被害防止をテーマとして、注意喚起のための寸劇・歌などを行う。

<東都生活協同組合(杉並区)>

杉並区の消費者行政の取り組み

- ・消費者行政副読本の学校への配布や出前講座で啓発。
- ・消費者グループ連絡会での意見交換やあんさんぶる荻窪まつり実施での連携
- ・直接話すことにより取り組みはわかったが、一般区民の認知度は低いと思う。区民へのPRは必要。



東都生協
岩崎初音さん

ワークショップ(12グループ)と発表

<大事にしたいこと、提案したいことをキーワードにまとめ、発表!>

- ・ 消費者行政調査の取り組みの継続
- ・ 行政と消費者団体との連携・つながりづくり
- ・ 一般の人々にも広げていく必要性 ・ 情報共有の場づくり
- ・ くらしのサポート隊の活動 ・ サポート養成講座とサポーターの活用
- ・ 市・区民から声をあげる ・ 行政の熱意
- ・ 啓発活動の工夫(子ども、一般消費者) 寸劇方式は分かりやすく知らせる手法



<アンケート結果とまとめ> アンケート回収:64枚

【感想・意見(抜粋)】

- ・ 行政調査に参加することで、行政とのつながりが持てることはとても嬉しいことです。今後も継続していくことが大切だと思います。
- ・ 何かしたい、しなければの思いを少しでも形にできればと思いました。
- ・ いろいろな方の生の声が聞くことができ参考になりました。書類だけでは伝わらない各団体行政区の活動の空気を感じることができました。

【まとめ】報告・交流会は、参加者が30代から70代までと年代も幅広く、アンケートからもほぼ満足しているとの回答が多かった。意見交換も活発に行われ、行政との連携の大切さを感じ、「消費者行政調査を継続してほしい」との声も多かった。

消費者行政の充実やより良いまちづくりのために連携や協力を進め、力を発揮していけるよう、この取り組みを活かしていきましょう。

<八王子市消費生活センター>

～消費者行政の積極的な展開～

2011年4月に八王子市消費生活条例を制定。

八王子市消費生活基本計画(素案)を出しパブコメを募集。市民に興味関心の投げかけができるのが大きい。悪質業者の排除・啓発になるよう、強い姿勢を示す。



八王子市消費生活センター
福田秀之さん

<中央区消費者友の会>

この調査に参加して

- ・ 連携や参画の機会が得られれば、消費者行政の活性化・充実を目指す一助になれるかもしれない期待が嬉しい。
- ・ 中央区は自営業が多く、私たちの活動が不毛の消費者運動と言われてきた中で活性化基金とこの調査は、今後のステップに大きな力になってくれます。



中央区消費者友の会
成沢敏江さん

<パルシステム東京(昭島市)>

昭島市の消費者行政について

- ・ 昭島市のくじらのイラスト入り「クリアファイル」を配布。ランドセルに入っていれば、啓発につながる。
- ・ 「くらしを守ること」は市民である自分たちが、知り取り組まなければならないことを再確認した。



パルシステム東京
北沢典子さん

<閉会挨拶>

東京都地域
消費者団体連絡会
奥田明子さん



このような機会に参加することが大事、また参加することで盛り上がる。今回の内容を今後活かしていきたい。これからも消費者行政調査を継続し、取組んでいきましょう。